

『一瞬先は、ひ、か、り伝説』 —とろんの元気力発伝書—



タイ北部山間の町、標高 600 メーターの桃源郷 PAI。世界中から旅人たちが集まり各国からの移住者も急増している中、電気も水道もないボクらの村(ムーンビレッジ)で 108 日間の祭り(たましいのかくじっけん)第二弾が「挙行」された。2012 年 12 月 1 日に始まり、2013 年 3 月 18 日に最終日を迎え、この(最後の晩餐)には世界中の旅人たちが集い、祈り、再会を約束して、花のように静かに散っていった、そして、その 3 日後の 3 月 21 日(木)大安の朝、旧友「春のうらら」(アートギャラリー「ボカラ」)の主催者で、日本で最も縄文力を放つ祭りを展開してきた一人で、2 年前の 3 月、放射能に追われるように栃木から逃げて、九州の福岡に着いたとたん、お風呂にはいったまま、ほっと、昇天してしまった 60 男のお墓(ガネーシャ祭壇)で 3 回忌の御参りをして、その翌日、ボクら 5 人家族は日本に向かってウキウキと旅立った。

108 日間の祭りが始まる直前、ボクは死亡率 30%といわれるジャングルだけに棲息する赤い毒虫に、なぜだか、刺され、11 月中旬から高熱と幻覚で意識脱落のまま入院生活をしていて、体重も 10 キロ近く失ってしまった。病院に運ばれたことや面会に来てくれた多くの人たちの事など一切覚えてなくて「もうダメかもしれないな」と何人かの友人たちは想っていたらしい。そして、11 月 26 日に奇跡的に無理やり退院でき、すでに決められていた前夜祭(町主催の祭り)で、ボクらのバンド「くるくる PAI バンド」が演奏を 11 月 30 日に迎え、翌日の 12 月 1 日に祭りのオープニングをムーンビレッジでやって、3 日には味噌作り(毎年、大量の大豆を作っていて、ほかの野菜畑もすべてオーガニックなもので、祭りが始まってからは、住人のタイ人家族がこの野菜を使った食堂を OPEN し、小さな野菜市場もできた)をやり、そして、12 月 7 日、ジョンレノンが路上で撃たれた日、病後まだまだ回復もしていない中、標高 1700 メーターの聖山「ドイ チーチョン」にみんなで登山して水晶を取ってきた。そして、12 月 8 日、真珠湾攻撃の日、ジョンレノンの命日、仏陀が悟ったといわれている日に、春のうららの祭壇にその水晶群を奉納したのだ。この聖なる山への登山では一步一步が命賭けで、病後のボクはバケツ一杯もの汗をかき、その翌日温泉に入ってみたら、長年気になっていた手足の皮膚病がすべて消えさっていたので、仰天したもの

だ。この瀕死の大病のおかげでボクの身も心も大浄化され、そして、108 日間の祭りが始まった。

2012 年 12 月 1 日のオープニングでは、ボクが火打石で火を起こし、六角堂前の広場に円形に形作られた大木群の(火処)に火を移し、108 日この火を絶やさぬようにしてきた。だから、月に一回はみんなで山に登って(大木おろし)のワークショップをし、朝夕、この火種をもらってアチコチで自炊してゆく風景がとっても儀式的で美しかったものだ。ボクはこの 108 日間に燃え尽きたこの灰群を日本に持ち帰って、亡き父母の線香立てに使ったり友人にあげたりしようと想っている。この月に一回の(大木おろし)の間を縫って、ワークショップは 17 回(おおつきさんの「快医学」、しゃんたんの「ゆるゆるめいそう」、納豆作り、味噌作りなど)、誕生会が 14 回(5 歳から 69 歳)、滝に行ったり山に登ったりのパブニングは 18 回起きて、108 日間の間に 49 回何かが起きていた。2~3 日に一度の、のんびりペース。

108 日間の「起承転結」のうねりの中、2 月 4 日から 13 日間の「シャンバラ祭り」(南正人オーガナイズ)があつて、彼らとの(融合)シーンは「転」にあたり、その大きな(融合)のうねりのまま(たましいのかくじっけん)第二弾は「結」に向かって行った。その「結」の震えの中、何度も「元気力発伝書」の新設をテーマに話し合い、祭りが終わってボクらや(ひでさんファミリー)の 2 家族が日本に帰ってしまった後もタイの元気力発伝書「ムーンビレッジ」は続行することになり、空き家となる二つの家も引き継がれることになった。特にボクらの家は大型木造高床式の(豪邸)で、なんにでも使える空間になっていて、その(縄文 SPACE)を「PAYAKA」(静岡県の浜松に本店が在り、今、タイ北部の都チェンマイに支店が出来て、オーナーの「とおるくん」が仕切っている)と(融合)して維持展開してゆくことになった。オーガニックな広い畑も、PAI で活躍している「夢蝶」ゆめむしの女たち(オリジナル民族衣装作家の「ゆう」と「ちま」)が契約栽培して味噌や染物などを作って「ムーンビレッジプロダクト」を産み出そうと意欲満々。そして年に一回の「シャンバラ祭り」にやってきた旅人たちが再び森の中でいつまでもキャンプできるようにしよう!!!ということになった。他

にも「フリースクール」案や、旅人や放射能からの避難家族の受け入れ案など(アイデア)と(想い)は沢山。ムーンビレッジは(想い)を(形)にしてゆく広大なキャンパス!!!

前のムーンビレッジに一等最初に植えた菩提樹を、5 年前、いまのムーンビレッジに移植して、今、十年以上たち木登りが出来るほどに成長している。ボクはその成長した菩提樹の周囲にムーンビレッジ中から集めてきた大きな石をコツコツと積み重ねて、インドやネパールと同じ(休み処)を作った。出来上がったコンクリート面に、ボクの想いのすべてを込めて「一瞬先は、ひ、か、り」と刻印している。PAI の自宅で産まれ出た「太一」が大きくなって独りで PAI に旅したとき、ボクが全力でイノチを注いだこの風景を是非とも目撃してきてほしいものだ。その長男「太一」が「小学校に行くなら岡山がいい!!!」とボクらに宣告した瞬間、12 年間暮らしたイトオシ PAI ライフも終焉し、ボクらのベースが岡山に移ったのだ。岡山のなごみ処「太一や」も 4 月の満月から再開し、7 月か 8 月には三人目の子「兆」ぎざし、も産まれて来る。今度も自宅出産だからまたまた勉強しななきゃ。そして、家の前をキレイな小川が流れる(新天地)を探さなきゃ。『一瞬先は、ひ、か、り伝説』—とろんの元気力発伝書—を描いて四冊目の本を出さなきゃ。こんなやることいっぱいの中、36 歳の愛妻「はるか」の「御言葉」が心に響く。「み〜んな神様のシナリオどおりなんだから、とろんさん、ダイジョ〜ぶ、だよ。ど〜んといこう!!!」

このところムーンビレッジ取材に来るタイのテレビ局や雑誌社が急増していて、この勢いのまま、是非ともひとつの(新天地モデル)として維持展開してもらいたいものだ。

送金と同時にアナタの住所氏名などを書いてはがきで下の住所へ連絡くださいね。折り返し、愛を込めて「ムーンビレッジ通信」などを返信します。

アナタからのドナーション、「喜捨」をまっていますね。「愛とお金は天下の回り物」を体現してゆくことで、国境を越えてヒトの愛とお金とイノチが共に廻り巡り、(うちゅう)あるいは(ゆめ)がふくらみ感染してゆくといいなあ。

三児の父となる 62 歳の(うちゅう呆人)とろんより。